

# 自然から学ぶ「特別集中実技セミナー」報告

Report on Summer Seminar "Study from Nature"

井 頭 均\*  
上 中 修\*\*

## Abstract

Several teachers and interested people came together in 2009 to form a committee named The Environment Education Curriculum Promotion Committee. We held a summer seminar for studying nature on August 8th and 9th, 2009. About 30 students majoring in education participated.

They toured fields, forests and riverine areas over the 2 days, making observations of many trees, flowers, weeds, fishes and insects. They caught butterflies and grasshoppers in the fields, and several kinds of fish and insect in the river. They had many experiences and learned many things about nature. When these students become elementary school and kindergarten teachers, these experiences will be useful and give them confidence.

キーワード：環境教育、小学校教員養成課程、体験実習

## 1. はじめに

本文は研究論文というよりも、むしろ昨年の夏に開催された「自然から学ぶ特別集中実技セミナー」に教育学部の在学学生29名が参加したときの実践報告である。そして、これらの活動について本学教育学部の先生方にも知っていただき、理解を深めてもらおうという趣旨で2010年の2月に開催された関西学院大学教育学会で発表した内容を、修正、加筆したものである。

ご承知の通り2006年、60年ぶりに教育基本法の改正が行われた。そして第1章、第2条の4項には「生命を尊び、自然を大切に、環境保全に寄与する態度を養うこと」と、まさに環境教育の目標ともいべき文言が教育基本法の冒頭に掲げられた。これらのことを受けて2007年に学校教育法が改正され、翌年の2008年、学習指導要領が改訂されたのである。

小学校理科に関して改正された主な点を挙げておくと、

- ・これまでの3区分から、2区分になったこと
- ・「風やゴムの働き」、「物と重さ」、「電気の利用」、「太陽と月」、「自然の観察」、「人の体のつ

くりと運動」の新しい6項目が加えられたこと  
・授業時間数が、これまでの350時間から405時間に増えたこと

などであるが、全体としては実感を持った理解を図るために、体験学習や自然体験、環境教育などが重視された内容となっている。

しかしながら、小学校教員のなかには自然体験学習や環境教育の指導はあまり得意ではない、あるいはどちらかといえば苦手であるという方々が少なくない。現役の教員を対象とした研修会を開催しても、参加する先生が極めて少ないのが現状である。新たに始まった免許更新制度の研修会にしても、なるべく安易で楽なものに流れる傾向がある。

## 2. 環境教育カリキュラム推進委員会

そこで、環境教育に熱心な教育関係者が集まり、「現役の教員だけを対象としていても十分な効果が上がらない。これからは、将来、幼稚園や保育所、小学校の先生になろうとする教員養成課程の在学学生を対象として、環境教育を実践できる経験や能力を育てることが必要である」という考えに至った。そして「身近な自然や環境のことを、もっとみんなに知ってほしい、環境教育をもっと推進していき

\* Hitoshi IGASHIRA 教育学部教授

\*\* Osamu UENAKA 教育学部准教授

い」という熱い思いをもった本学教育学部の教員4名と、兵庫県や大阪府の小学校、中学校、高校の教員、川西市の教育委員会、兵庫環境創造協会などのメンバーらが集まり、2009年5月、環境教育カリキュラム推進委員会を立ち上げることになったのである。

本委員会が設立された経緯についてもう少し詳しく説明すると、川西市教育委員会の牛尾巧氏と本学の山本伸也教授とが大学時代の友人であったことから、この話が本学教育学部に持ち込まれたという訳である。本学教育学部が掲げる「実践力を備えた優れた教員養成」という教育理念とも一致し、ぜひこのチャンスを本学の学生に提供できればと考えて企画することになり、理科や保育内容「環境」を担当する筆者らに声がかかったという訳である。

本委員会の趣旨は、「幼少期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、この時期の教育を担う資質の高い教員養成が今日の社会から求められている。本委員会は、人を育て、発育とのつながりを大切にした環境教育の推進に向けて協議し、円滑な推進を図る」というものである。

本委員会のメンバーとして、学外から

- ・川西市教育委員会の牛尾巧氏（川西市中学校教員、理科担当）
- ・猪名川町教育委員会教育部長の井上俊彦氏
- ・ひょうご環境創造協会常務理事の阿多修氏
- ・野生生物を調査研究する会理事長の黒田明彦氏（川西市小学校教員）
- ・ひょうご環境創造協会の今西将行氏（本委員会創設の中心的存在）

本学からは、島田ミチコ教授、山本伸也教授、上中修准教授、そして筆者の4人である。今年の4月からは、湊秋作教授にも入ってもらっている。

### 3. 第13回「自然から学ぶ特別集中実技セミナー」

#### (1) 日程や場所

ひょうご環境創造協会や野生生物を調査研究する会が毎年、小学校や中学校教員対象に「自然から学ぶ特別集中セミナー」を開催していて、今年で13回目となる。今年の開催期日や場所は次の通り。

- ・開催日：2009年8月6日（木）、7日（金）の2日間、日帰り。
- ・会場：三田市立有馬富士自然学習センター。新

三田駅から東へ徒歩約20分。

本委員会は最初の具体的な活動のひとつとして、このセミナーの対象を教育学部の在学生にも広げてもらい、本学の学生を参加させることにした。教育学部の2～4年生を対象に募集したところ、30名の応募者があり、そのうちの29名が参加した。他に、小中学校の教員10数名が参加。

#### (2) 主なプログラム

##### ① 1日目

- ・9:00 開会式、
- ・9:10 オリエンテーション、福島大池の周囲を移動しながらの有馬公園内の植物観察と、草原や林の生態系の学習
- ・12:00 昼食、休憩
- ・13:00 青少年野外活動センターに移動
- ・14:00 水辺の生物調査、水生昆虫の採取
- ・15:30 有馬富士自然学習センターに戻る
- ・16:00 解散

##### ② 2日目

- ・9:00 昆虫等についての講義、虫取り網の組み立て、
- ・10:30 昆虫採集
- ・12:00 昼食、休憩
- ・13:00 顕微鏡によるプランクトンの観察など
- ・14:00 ビオトープ（自然の生態系を観察するための池、水溜り）の講義
- ・15:00 2日間で学んだことのまとめと閉会式
- ・16:00 解散



図1 樹木の観察



図2 水生昆虫の採取



図3 虫取り網を組立てる



図4 顕微鏡によるプランクトンの観察

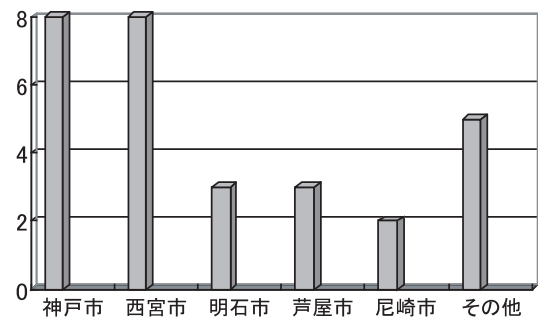


図4 参加した学生の居住地  
(家から会場までの所要時間は、平均約1時間30分)

名などが多い。会場までの所要時間は平均すると1時間30分で、会場に近い地域からの参加だけでなく、遠方からの参加者が多くいたことが分る。

(2) セミナーに期待していたこと

参加する動機ともいえるが、セミナーに期待していたことを挙げてもらったところ、一番多かったのは「いろいろな自然体験をすること」(18名)で、そのほか「虫の苦手意識の克服」(4名)、「自然についての知識」(3名)などである。

(3) プログラムの中で、興味関心をもった内容

実際に参加してみて、興味や関心の高かったプログラムを答えてもらったところ、人気があったのは水生生物(13名)、昆虫(12名)、ビオトープ(10名)などが上位を占めている。反対に、植物観察をあげた人は少数に過ぎない。

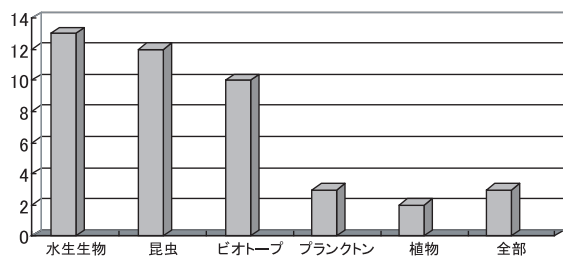


図5 興味関心をもった内容

4. 評価

セミナー終了後、参加した学生にアンケート調査を行ったので、ここではそれらの結果の中から幾つかを紹介したい。

(1) 会場と参加した学生の住所の関係

参加した学生の住所は神戸市の8名、西宮市の8

(4) 参加して、今回新たに興味関心をもったこと

セミナーに参加して、新たに興味関心をもったことや意外な発見などについて自由に書いてもらった内容の一部を紹介すると、以下のようなものがあった。

- ・動植物の生態系のおもしろさ。
- ・ミツバチやクマバチの雄は刺さないこと。

- ・トンボ、カエル、カナヘビなどに触れることができた。
- ・たくさんの種類のキノコがあり、興味深かった。
- ・植物を見て触れて匂いを嗅ぐなど、体全体で経験できた。
- ・子どもがビオトープに関心をもつことに驚いた。

### (5) 意見・感想

今回のセミナーに対する全体的な意見や感想を自由に書いてもらったところ、「とても勉強になって良かった」、「いろいろな体験ができた」など、概ね好評であった。それらの中から幾つかを紹介すると、

- ・講師の先生方がとても分かりやすく説明して下さり、興味をもって参加することができた。
- ・先生の貴重な経験と話を通して、世界が広がった。
- ・たくさんの虫と魚と触れ合うことができ、とても楽しく過ごすことができた。
- ・自然の中で多くの知識を学ばせてもらい、勉強になった。
- ・実際にたくさんの自然や生物に触れることができて、とても勉強になった。
- ・知識を身につけると同時に、楽しむことができてよかった。
- ・体験することの大切さを学ぶことができた。
- ・とても楽しかったので、また参加したい。

### (6) 今後への要望

今回のセミナーのやり方やプログラムの内容についての要望を書いたところ、以下のような意見や要望があった。これらの項目について、今後の計画を立てるときの参考にしたい。

- ・通いでなく、1泊2日のほうがよい。
- ・子どもと一緒に活動したい。
- ・キノコについてもっと詳しく知りたい。
- ・天体観測してみたい。
- ・動物や鳥のことを学びたい。
- ・もっとビオトープについて講義してほしい。
- ・プランクトンについてもっと知りたい。
- ・植物の育て方について学びたい。

## 5. 今後の課題

引率者の立場からの感想であるが、参加者のうち

1名が1日目の途中で体調を崩し早退した(2日目は朝から元気に参加していた)が、それ以外の者は全員最後まで無事に参加することができて、ほっとしたというのが本音である。

2日間ともに遅刻者がなく、集合や移動もてきばきと行動できていたし、講師や職員の方への礼儀もできていた。特に2日目は疲れも出てくるので、ただららとした行動や態度をとる学生が出るのではないかと心配していたが、みんな最後まで真面目に受けてくれた。

今回は初回ということもあって、ひょうご創造協会、野生生物を調査する会などの方々に、おんぶに抱っこで実施することができたが、この状態をそのままいつまでも続けていくわけにはいかない。この活動を長く続けていくためには、我々も講師として参加したり講義を提供したりする必要があるのではないだろうか。また、セミナーのプログラムや内容について、学校の授業で十分できないところに絞って行うなど、こちらがもう少し積極的に関わっていく必要があると思う。

現在、この活動は本学教員の有志と学外の教育機関関係者との共同の教育研究活動のひとつとして位置づけられているが、教育学部学生の自然体験活動や環境教育指導の実践的能力を向上のための非常に有効な活動であり、大学としてももう少し積極的にサポートしてもらうことはできないか可能性を探っていきたい。

現在は教育学部の学生の中から希望者を募って参加してもらっているが、3年生になるとゼミが始まるので、理科系のゼミの教育活動とタイアップして行うようにしてはどうだろうか。たとえば筆者のゼミに入った学生は、原則としてこのセミナーに参加してもらおうようにするのである。授業時間数や評価方法などクリアしなければならない点もあるが、少なくとも理科や保育内容の環境領域を研究分野に専攻する学生にとって、本セミナーに参加して経験を積んでおくことは非常に有意義であると考えられる。

本委員会は来年度も教育学部の学生に参加者を募る予定であるが、このような活動が打ち上げ花火のように一過性のものにならないように、粘り強く続けていきたい。そして、ひとりでも多くの学生が本セミナーに参加し、自然との共存の大切さを考えていく環境教育の実践能力をもった教員に育ってくれ

ることを願ってやまない。

#### 参考文献

1. 小学校学習指導要領、2008、文部科学省。
2. 村山哲也編著、2008、小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり理科、東洋館。
3. 森本信也編著、2008、平成20年改訂小学校教育課程理科、ぎょうせい。
4. NPO 法人野生生物を調査研究する会、2009、自然から学ぶ特別集中実技セミナー資料。

#### 引用文献

1. 環境教育カリキュラム推進委員会設置要綱、2009、環境教育カリキュラム推進委員会。
2. 黒田明彦他、2009、2009年度第2回環境教育カリキュラム委員会資料。